

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

### \* ロンビック空中線アンテナ鉄塔建設時(1956年)の図面

現在は、天文情報センター暦計算室にいる松田浩氏から、ロンビックアンテナ建設時の図面があると届けていただいた。ロンビックアンテナはすでに現存しないが、この図面を見ると昭和31年(1956年)10月建設とある。東京天文台90年史27ページに下記の記事がある。ロンビックアンテナは国際地球観測年(IGY)の事業として建設されたことがわかる。

高さ 60 メートル 4 本の空中線鉄塔は、昭和 18 年 8 月軍用機がこれに触れ、墜落するという事故が直接原因となって、終戦を眼前にした昭和 20 年(1945) 4 月、軍の手で倒され、以後木柱アンテナ数本に頼っていたが、IGY(1957 年～1958 年)を期して、再び高さ 25 メートルの鉄塔 4 基が立てられ、さらに昭和 39 年(1946)自立式鉄塔一基が追加された。また昭和 35 年(1960)には方向探知用アンテナが設置され、報時受信資料の解析に有力な武器となった。

図1が、入手したロンビックアンテナの図面で、1957年3月21日の日付がある。

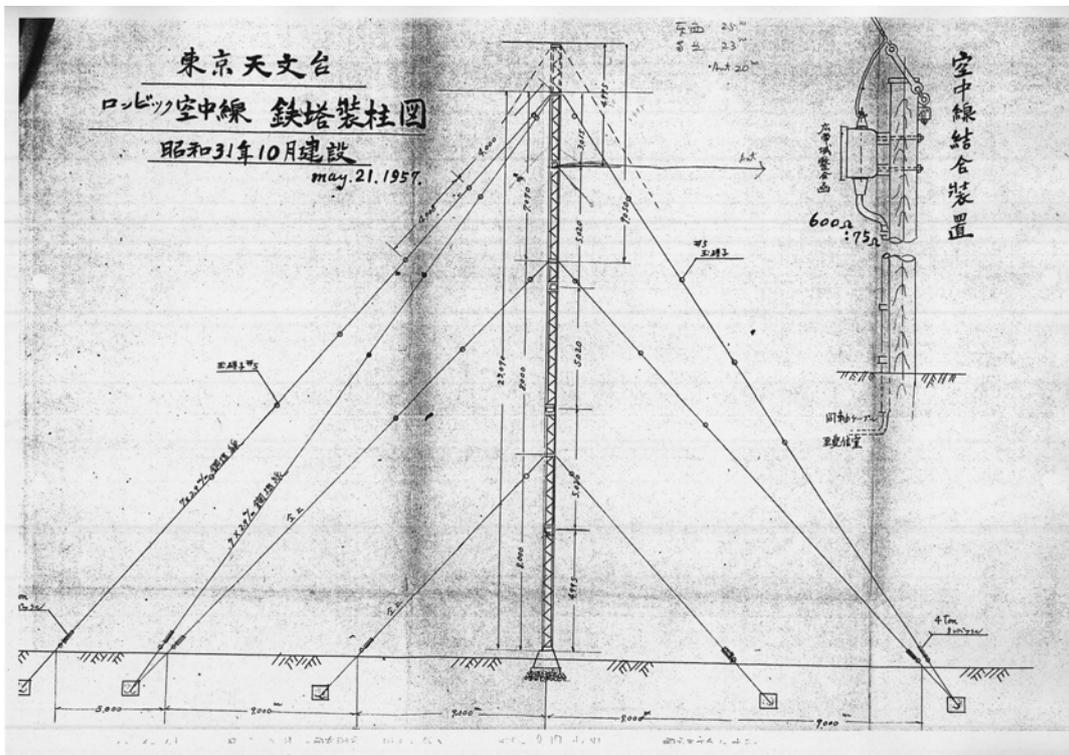


図1 昭和31年のロンビックアンテナ図面

この図面から、4本の鉄塔は同じ高さではなく、東西鉄塔が25m、南北鉄塔が23m、空中線の高さは20mと書かれている。当時の写真として写真1が同時に筆者に渡された。



写真1 4本のロンビクアンテナ鉄塔

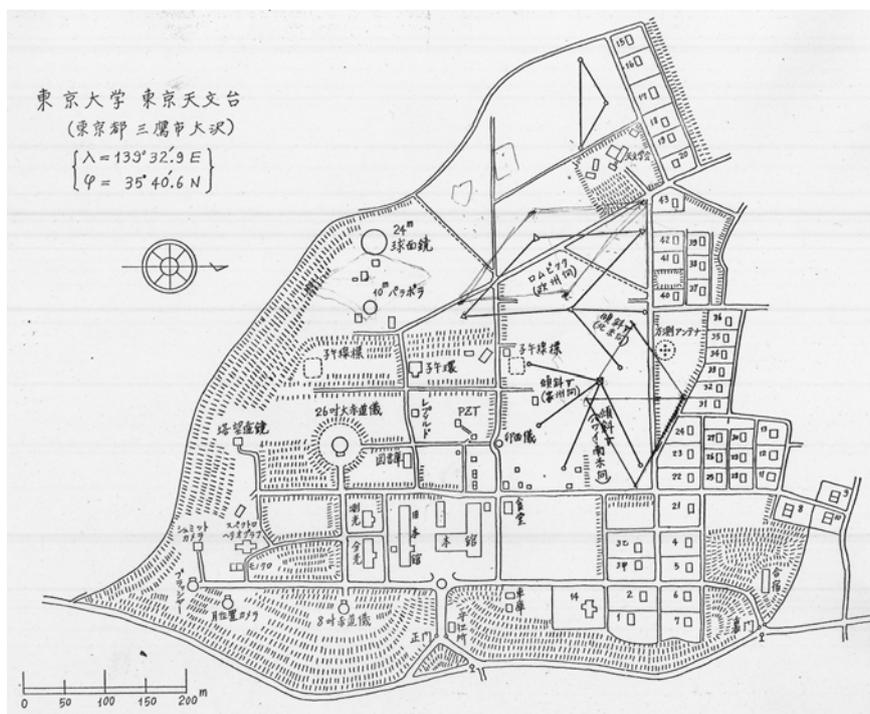


図2 当時の三鷹キャンパス図

90年史の記事には昭和39年を1946年と記述したり、4本の鉄塔全てが高さ25mと読める記述があったりと、このような公式の年史記録にも誤りがあることに注意が必要である。

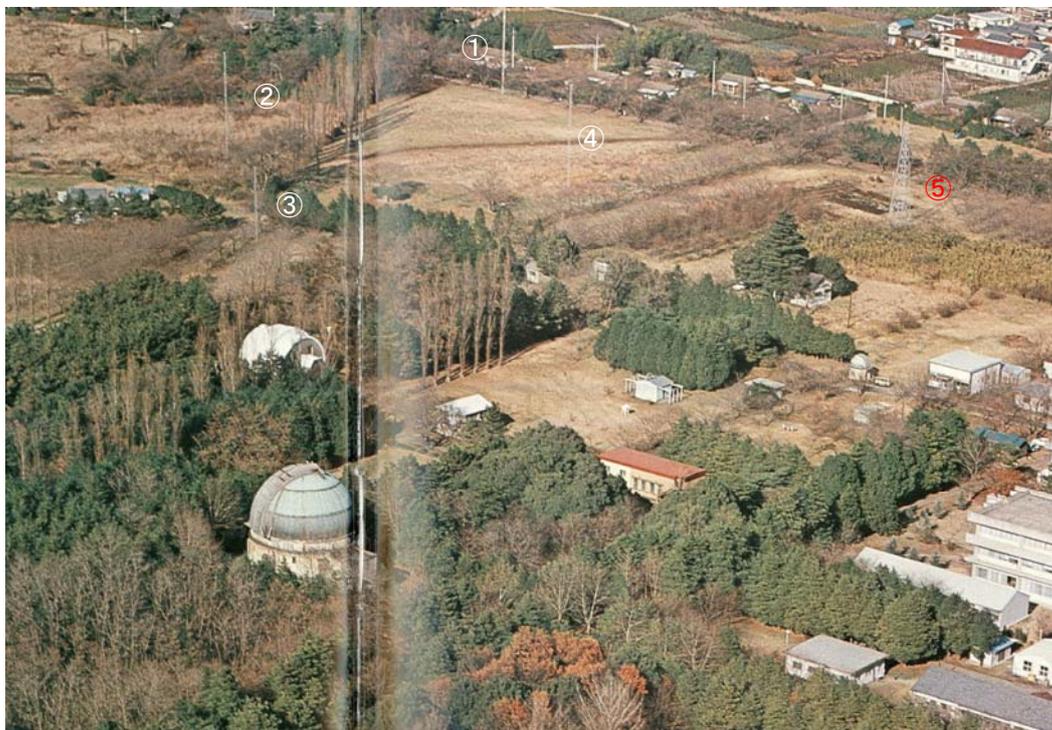


写真2 東京天文台100年史の三鷹キャンパス写真

写真2の①、②、③、④がロンビックアンテナ鉄塔であり、⑤が90年史記事自立式鉄塔である。この⑤の自立式鉄塔には豪州向け傾斜Vアンテナとハワイ向け傾斜Vアンテナがあり、ロンビックの東北鉄塔④から北米向け傾斜Vアンテナが張られていたことが当時の三鷹キャンパス図からわかる。またキャンパス図に載っている方測アンテナ（昭和35年建設）の写真3も同時に入手した。このアンテナの痕跡は現在でも桜並木北側に現存している。



写真3 方測アンテナ（桜並木北側）